

見えない応援団

「ペラッ」静まり返った図書館で、私は教科書をめくっていた。夏休みに入り、本格的に受験勉強が始まった。私はよく勉強をしに図書館に行く。家だとテレビの音やスマホの通知が気になってしまうけど、ここに来ると集中することができる。整った机と椅子、ほどよい空調、そして静かな空間。図書館の中にいるだけで、「頑張ろう」そう思える。

でもある日ふと思った。この整った空間は、どうやってつくられているのだろう。エアコンの電気代、机やイス、本にかかる費用。どれもきつと沢山のお金がかかっているはずだ。気になって調べたら、「税金でつくられているんだ」そう気づいた。その時、「繋がり」を感じた。私がいつも勉強しているこの場所は、誰かが働いて納めた税金によって支えられていたのだ。

思い返してみると、分からない問題があったときに見る教科書も、税金でつくられている。私たちは当たり前のように教科書を受け取り、毎日使っているけど、その費用も国が負担してくれている。もし税金がなかったら、教科書を自分たちで買わなければならず、経済的な理由で勉強のスタートラインに大きな差が出てしまうかもしれない。

さらに、学校の建物や水道、先生方の給料や当たり前のように食べている給食にも、税金が使われている。私たちが安心して学校に通い、落ち着いて学習できる環境があるのも、税金のおかげなんだと改めて実感した。

私は今、受験生だ。未来の選択肢を増やすために勉強している。合格までの道を進むためには、自分の努力だけでは難しい。税金という形で、社会が私を応援してくれている。それに気づいたとき、感謝の気持ちがこみ上げてきて、「もっと頑張ろう。」そう思えた。

図書館に通っていると、私と同じように勉強している人をたくさん見かける。小学生も、高校生も、大人もいる。みんなそれぞれの目標に向かって、静かに努力している。その姿を見る度に、「この空間が、誰にとっても安心して頑張れる場所であってほしい」と思う。

私も将来、社会人になったら税金を納める側になる。そのときは、今支えられている税金に恩返しするつもりで、税金を納めたい。そして、今の私のように何かに挑戦している誰かの力になれたら嬉しいと思う。

税金は、ただのお金ではない。誰かの夢を支える、見えない「応援」の形だ。その応援に支えられながら、未来の自分と、そして誰かの未来のために、私は今日もページをめくる。